



国労仙台

こくろうせんだい 速報版

No.2577
2010年3月6日
発責 橋本 昭二
編責 武田 昌仙

仙台で国労をアピール



3月5日、仙台市内において国労東北総決起集会在開催され、四百名を超える仲間が結集した。
第一部の勾当台公園での集会では、主催者を代表して東北協議会瀬下議長が挨拶に立ち、春闘情勢、安全問題と職場労働条件の改善、JR不採用問題、参議院選挙闘争を勝利し平和と民主主義を守り生活向上を目指す勢力の前進と、更に



東北協議会瀬下議長

国労東北総決起集会

は春闘勝利と諸課題の前進、そして闘いを通じて新しい仲間を国労に迎え入れる決意を固め合おうと訴えた。
また来賓として、社民党宮城県連合岸田幹事長、日本共産党宮城県委員会加藤政策委員長、宮城県平和労組会議菅原事務局長からそれぞれ激励と連帯の挨拶を受け、東北交運労協からは連帯のメッセージを頂いた。
集会アピールを採択後、3ブロックに分かれ仙台市内をデモ行進。賃上げを始めとした労働条件の改善や安全問題などの国労要求を市民にアピールし、氣勢を上げた。



東日本本部高野委員長

第二部は仙台市シルバークンターで行われ、国労東日本本部高野委員長から挨拶があり、10春闘情勢、安全問題、組織強化・拡大、JR不採用問題の早期解決について述べた。

佐高信氏が講演



続いて評論家の佐高信氏より、「いま、政治と経済を読む」と題した講演があった。佐高氏は現在の社会・経済問題を例に引き出し、「トヨタ問題が報道されているが、これまでの企業の問題が、これまで利用者に暴かれ、その結果マスコミの箱口令が解かれ、矛盾が一気に吹き出したもの」、「民営化とは会社化であり、赤字と黒字のみを基準とし、安全より儲けが大事と宣言したこと、他に他ならない」、「労働組合



は身体に例えれば神経であり、痛みは病気を知らせるサイン。例え少数派であっても発信し続けなければならぬ」等々、多くの実在の会社名を上げてその実態の暴露と、我々の目指すべき道を示唆した。
集会は、盛岡地本阿部副委員長、秋田地本渡邊書記長、仙台地本中嶋副委員長及び東北貨物協議会岩井議長からそれぞれ力強い決意表明を受け、最後に東北協議会斎藤副議長の団結頑張ろう締められた。



佐高信氏の講演